

トマホークの配備に反対する決議

今年6月から、アメリカ海軍太平洋艦隊に、核弾頭が装着できる巡航ミサイル・トマホークが配備されようとしている。このトマホークは、小型ミサイルにもかかわらず、超低空飛行と地形照合誘導とによって、高い精度で目標を確実に破壊する、おそろべき戦術兵器である。

アメリカ海軍の重要な寄港地であり、アメリカのアジア戦略にくみこまれているわが国では、トマホークを配備した艦船の入港により、「非核三原則」が完全に空文化され、さらには、日本海や北太平洋などの極東における米ソの緊張が激化し、新たな核戦争を誘発する可能性が急速に高まることは、疑いのない事実である。

我々地団研は、これまで「平和のための科学」を活動スローガンの重要な柱の一つとし、反戦平和のたたかいを展開してきた。今回の総会においても、「軍拡路線に反対し、広範な国民とともに、反核・平和の闘いをおし進めよう」のスローガンを再び採択した。この立場からも我々は、平和に敵対し核戦争を誘発するトマホークの配備に反対することを、総会の名において決議する。

1984年5月5日

地学団体研究会第38回総会